

# 特別養護老人ホームで生活する認知症高齢者に対する 「コラージュ」制作の試み

中澤 明美<sup>1)</sup>, 金森 昭憲<sup>2)</sup>, 佐藤 みつ子<sup>1)</sup>

了徳寺大学・健康科学部看護学科<sup>1)</sup>

了徳寺大学・教養部非常勤講師<sup>2)</sup>

## 要旨

了徳寺大学美術学科と看護学科教員の共同研究として、特別養護老人ホームで生活する認知症高齢者7人を対象に全10回の「コラージュ」制作を実施した。対象者の感情表出を点数化し、その推移を追った。結果、対象者7人とも肯定的感情が否定的感情を上回った。概ね全員が、コラージュ制作に関心を示し楽しんで取り組み多くの笑顔がみられた。ただし、コラージュ制作が認知症の心理・行動症状の低減や日常生活の機能回復につながったのかは明らかではない。「コラージュ療法」としての有効性の検討については今後の課題である。

キーワード：特別養護老人ホーム，認知症，高齢者，コラージュ

## Effects of the Collage Picture on Elderly Dementia Persons Living in Special Nursing Homes

Akemi Nakazawa<sup>1)</sup>, Akinori Kanamori<sup>2)</sup>, Mitsuko Sato<sup>1)</sup>

Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University<sup>1)</sup>

Part-time lecturer, Faculty of Liberal Art, Ryotokuji University<sup>2)</sup>

## Abstract

As a joint project of the Department of Art and the Department of Nursing at Ryotokuji University, effects of collage pictures on elderly dementia persons living in special nursing homes were studied. Seven subjects participated in the study, and they created collage pictures 10 times. Feeling expressions obtained from their collage pictures were scored, and transitions of their feeling expressions were traced by changes of their collage pictures. Most subjects created collage pictures with interest and enjoyed the activities, and all the subjects demonstrated positive responses more than negative responses. However, it was not clarified whether creation of collage pictures had any effect in decreasing the subjects' behavioral psychological symptoms of dementia (BPSD) or to improve the Barthel Index of the elderly dementia persons. Therefore, further studies are necessary to verify effects of creation of collage pictures on elderly dementia sufferers.

Keywords : Special nursing home, elderly person, dementia, collage

## I. はじめに

コラージュ (collage) とは、フランス語で「糊付けする」という意味であり、新聞紙、布きれ、木片、粘土、絵の具など本来関連性の無い様々な素材を張り合わせて画面を構成し、特殊な効果を生み出す現代絵画の一技法である。コラージュの美術史としての誕生は、画家のパブロ・ピカソ (1881-1973) とジョルジュ・ブラック (1882-1963) から始まりおよそ100年の歴史がある。一方、セラピーとしての「コラージュ療法」は、ピカソをはじめとする芸術家たちのアートワールドの流れを汲んだものではない。我が国における最もポピュラーなアートセラピーの一つである箱庭療法からヒントを得たものであり1980年代後半から日本独自の発展を遂げてきた分野である。その研究には、認知症高齢者のレクリエーションとしての効果を測定したもの<sup>1) 2) 3)</sup> 精神科長期入院患者を対象とした介入研究<sup>4)</sup> 一般の女子大生の自尊感情や自己理解<sup>5) 6)</sup> や新人看護師のストレスケア<sup>7)</sup> など様々な分野で用いられている。コラージュ制作を経験することは、美術の得意・不得意に関わらず簡易な方法で芸術的な領域に接することができ、主な効果としてストレス発散や満足感・達成感を得ることで自尊感情の回復につながるとの報告もある<sup>5) 7)</sup>。また、近年では、悪性腫瘍患者の心理的支援としての役割効果など医療の現場にも取り入れられている<sup>8)</sup>。

我が国の社会的課題の一つに人口の急速な高齢化に伴う認知症高齢者の増加がある。認知症の主な症状である行動・心理症状behavioral psychological symptoms of dementia (BPSD) は、関わる者の関わり方(看護の力)で低減することができるため様々な非薬物療法の試みがなされており芸術療法もその一つである<sup>9)</sup>。

本学は、医療と芸術の融合を教育理念に掲げ看護学科では、「芸術表現」「芸術療法概論」「芸術療法実技」などの科目をカリキュラムに取り入れている。このような背景をもとに看護学科と美術学科教員の共同研究として、芸術表現の一つであるコラージュ制作の医療(福祉)への活用に取り組んだ。これまでの特別養護老人ホームで生活する認知症高齢者を対象とした「コラージュ」制作を試みでは、唾液アミラーゼによる「快・不快」の測定<sup>1)</sup> や音楽療法と併用した対象者の対人行動変化<sup>3)</sup> などの報告があるが感情表出に焦点を当てた研究はあまりみられない。そこで本研究は、対象者の感情表出の程度を視点に評価しその推移を追うことを目的とした。

## II. 目的

本稿の目的は、特別養護老人ホームで生活する認知症高齢者を対象に「コラージュ」制作を実施し、表情や言動・態度から感情表出の程度を評価することである。

## III. 方法

### 1. 対象者

A特別養護老人ホームで生活する認知症高齢者。認知機能・生活機能の程度を鑑み施設の介護士に8～10人程度の対象者の人選を依頼した。人選された8人の対象者のうち体調不良などでコラージュ制作に1回も参加されなかった1人を除いた7人(男性2人、女性5人)を対象とした。平均年齢86.9歳(SD: 5.9) 日常生活動作指標であるBarthel Indexスコア平均点は65点(SD: 10.0) 施設の平均入所期間は3.4年(SD: 2.6) である。

### 2. データ収集期間

2013年7月下旬～11月上旬までの3ヵ月半の間に全10回実施した。

### 3. コラージュ実施方法

#### 1) 事前準備

コラージュ制作は大別すると、①製作者が自ら材料を調達して行う「マガジンプクチャー方式」②セラピストが事前にたくさんの切り絵を箱に入れて用意しておく「BOXアート方式」③作家が作品として展覧会などで発表するための「芸術作品としてのコラージュ」がある。今回は、対象の状況を鑑みて②BOXアート方式により実施した。

様々な雑誌から数百枚に及ぶ切り絵を用意し「景色」「食べ物」「ファッション」「花」「人物」「乗り物」などに分類し所定の箱に納めて取り出しやすいようにした。その他、B4サイズの画用紙、スティック糊、色鉛筆を用意した。

#### 2) 実施場所

A特別養護老人ホームのディルームで、対象者7人と研究者3人、介護士3人がお互いの顔を見ることができるよう大型の円形テーブルに腰かけて実施した。

#### 3) 実施時間

昼食終了後の13時30分頃からディルームに集合し、全員が揃ってから挨拶と簡単な説明、13時45分頃から約45分間コラージュ制作。完成した作品に名前を記入し、美術学科教員により一人ひとりの作品について講評をした。一人の講評ごとに全員で拍手し作品を披露しあった。集合から終了解散まで全70分程度であった。

### 4. 評価方法

土屋ら<sup>10)</sup>により検討された認知症高齢者の感情指標Philadelphia Geriatric Center Affect Rating Scale (以下、ARS)<sup>11)</sup>を用いて、楽しみ〈笑顔、嬉しそう、喜び、歌う〉・関心〈真剣、まじめ、興味津々、集中〉・満足〈ゆったり、リラックス、安心、落ち着き〉からなる【肯定的感情】と、怒り〈眉間にしわ、怒る、不機嫌、攻撃、拒否〉・不安、恐れ〈ソワソワ、イライラ、緊張、徘徊、妄想話〉・抑うつ、悲哀〈寂しさ、しょんぼり、無関心、無表情、困惑〉からなる【否定的感情】の計6項目についてコラージュ制作前・中・後に分けて「多くみられる：3点」「少しみられる：2点」「みられない：1点」で点数評価した。対象者個人別「コラージュカルテ」を作成し全10回の推移を追えるようにした。評価者は、研究者である看護学科教員2人と施設の介護士3人の合計5人である。7人の対象者を分担して受け持ち、制作前・中・後の表情や言動、作品への取組み状況を観察し個別カルテである評価表に記録した。評価者は対象者の隣に腰かけ対話し、時に作品の制作を手伝いながら観察、評価した。

### 5. 分析方法

各回の制作実施終了後に対象者一人ひとりの【肯定的感情】と【否定的感情】の合計点を算出し、推移をグラフ化した。【肯定的感情】は、点数が高いほど楽しみや満足感が高く、【否定的感情】は、点数が低いほど不安や抑うつ感が少ない。点数の最高点は27点 最低点は9点である。

### 6. 倫理的配慮

本研究は、了徳寺大学生命倫理委員会の承認を得て実施した。(承認番号：2501)  
まず、実施施設の施設長に研究の主旨と目的を説明し施設としての研究協力に対する同意を得た。その後、対象者とその家族に研究の主旨と目的、参加は自由意思であり強制力はないこと、不参加の場合もその後の生活に何ら不利益を被ることはないこと施設の介護士が付き添い、不具合や危険が予測されるときは作業を中止するなどについて口頭と文書で説明し家族から同意書にサインを得た。

## IV. 結果

### 1. 対象者の属性 (表1)

表1. 対象者の属性

ID	性別	年齢	介護区分	認知症高齢者の 日常生活自立度	Barthel Index スコア	入所期間
Aさん	男性	81	要介護3	Ⅱb	55	8年
Bさん	女性	95	要介護3	Ⅱa	60	3年
Cさん	女性	82	要介護3	Ⅱb	55	2年
Dさん	女性	90	要介護3	Ⅱb	75	1年
Eさん	男性	92	要介護1	Ⅱa	80	6年
Fさん	女性	88	要介護3	Ⅱb	60	2年
Gさん	女性	80	要介護2	Ⅱb	70	2年

### 2. 参加状況

対象者7人の参加回数は、全10回参加：1人 9回参加：2人 8回参加：3人  
7回参加：1人であり、平均参加回数は8.4回だった。不参加の理由は、体調不良や面会、フロアへの都合（入浴など）であった。

### 3. 個人別感情得点の平均 (表2)

表2 個人別 平均感情得点

対象者7人とも肯定的感情が否定的感情を上回り、概ね全員がコラージュ制作に関心を示し楽しく取り組んでいたが、一人で黙々と制作を続ける者、糊の使い方が分からない者、切り抜きを箱から選んで糊で用紙に貼るという行為自体を理解できず支援を要する者など個々に特徴の違いがみられた。

ID	参加回数	肯定的感情	否定的感情
Aさん	7回	16.1	11.0
Bさん	8回	20.9	11.1
Cさん	10回	23.0	9.0
Dさん	8回	20.3	9.6
Eさん	8回	15.6	11.8
Fさん	9回	15.0	11.6
Gさん	9回	14.4	11.1

### 4. 個人別感情得点の推移と作品例 (図3)

Aさんは3回目に「紙を茜色に染めたい、雲を作りたい、(作品を)30万円くらいで売りたい。」など妄想話と思われる言動が続きソワソワ、イライラ感があり、否定的感情が肯定的感情を上回った。Bさんは6回目、

この日は朝から不穏状態があり、作品が完成すると「母親に見せたかった」と大声で話し涙を流すなど感情の不安定さがあった。また、Bさんは、写真を貼る行為より色鉛筆で日本髪の女性を描くことが好きでどの作品も貼り絵の横に女性の横顔が描かれている。Cさん、Dさんは一貫して感情が安定していた。否定的感情は毎回9～10点でほぼ見られなかった。熱心に作品作りに集中し、特にCさんは毎回B4画用紙裏表2枚(計4枚分)の作品を完成させた。Dさんは、かわいい子供の写真が好きで「かわいいね…」と嬉しそうにしていることが多かった。Eさんは、はじめ表情が硬く緊張感が強く見られたが、回を重ねるごとに緊張感がほぐれ否定的感情得点が低下していった。最終回の日、看護学生の実習日で学生も参加したが、学生からも「Eさんは緊張するといつも口から唾や痰を出してティッシュで拭きとる動作があるのですが、コラージュの時間は1回もその動作がなく表情も穏やかだった」との感想が聞かれた。Fさん、Gさんは1回目から何をするのか作業の意味が理解できない様子で作品作りに集中できないことが多かった。

Cさん:参加回数は10回だが2回目点数表に欠落あり。9回分の平均点である。

毎回作品完成後には、一人ひとりの作品を紹介し美術学科教員による講評を加え、全員が大きな拍手で作品を称えた。この場面ではすべての対象者から嬉しそうな満面の笑顔がこぼれた。

感情得点の推移	作品例																																	
<p style="text-align: center;"><b>Aさん</b></p> <table border="1"> <caption>感情得点の推移 (Aさん)</caption> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>得点 (実線)</th> <th>得点 (点線)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回目</td><td>12</td><td>10</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>13</td><td>9</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>15</td><td>18</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>20</td><td>10</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>15</td><td>11</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>18</td><td>9</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>20</td><td>9</td></tr> </tbody> </table>	回数	得点 (実線)	得点 (点線)	1回目	12	10	2回目	13	9	3回目	15	18	4回目	20	10	5回目	15	11	6回目	18	9	7回目	20	9										
回数	得点 (実線)	得点 (点線)																																
1回目	12	10																																
2回目	13	9																																
3回目	15	18																																
4回目	20	10																																
5回目	15	11																																
6回目	18	9																																
7回目	20	9																																
<p style="text-align: center;"><b>Bさん</b></p> <table border="1"> <caption>感情得点の推移 (Bさん)</caption> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>得点 (実線)</th> <th>得点 (点線)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回目</td><td>19</td><td>10</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>22</td><td>9</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>21</td><td>9</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>24</td><td>9</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>23</td><td>10</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>18</td><td>21</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>18</td><td>9</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>24</td><td>12</td></tr> </tbody> </table>	回数	得点 (実線)	得点 (点線)	1回目	19	10	2回目	22	9	3回目	21	9	4回目	24	9	5回目	23	10	6回目	18	21	7回目	18	9	8回目	24	12							
回数	得点 (実線)	得点 (点線)																																
1回目	19	10																																
2回目	22	9																																
3回目	21	9																																
4回目	24	9																																
5回目	23	10																																
6回目	18	21																																
7回目	18	9																																
8回目	24	12																																
<p style="text-align: center;"><b>Cさん</b></p> <table border="1"> <caption>感情得点の推移 (Cさん)</caption> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>得点 (実線)</th> <th>得点 (点線)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回目</td><td>24</td><td>9</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>22</td><td>9</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>22</td><td>9</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>20</td><td>9</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>24</td><td>9</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>23</td><td>9</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>24</td><td>9</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>23</td><td>9</td></tr> <tr><td>9回目</td><td>23</td><td>9</td></tr> <tr><td>10回目</td><td>25</td><td>9</td></tr> </tbody> </table>	回数	得点 (実線)	得点 (点線)	1回目	24	9	2回目	22	9	3回目	22	9	4回目	20	9	5回目	24	9	6回目	23	9	7回目	24	9	8回目	23	9	9回目	23	9	10回目	25	9	
回数	得点 (実線)	得点 (点線)																																
1回目	24	9																																
2回目	22	9																																
3回目	22	9																																
4回目	20	9																																
5回目	24	9																																
6回目	23	9																																
7回目	24	9																																
8回目	23	9																																
9回目	23	9																																
10回目	25	9																																
<p style="text-align: center;"><b>Dさん</b></p> <table border="1"> <caption>感情得点の推移 (Dさん)</caption> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>得点 (実線)</th> <th>得点 (点線)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回目</td><td>19</td><td>10</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>20</td><td>9</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>21</td><td>9</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>21</td><td>9</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>23</td><td>9</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>19</td><td>9</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>20</td><td>13</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>19</td><td>9</td></tr> </tbody> </table>	回数	得点 (実線)	得点 (点線)	1回目	19	10	2回目	20	9	3回目	21	9	4回目	21	9	5回目	23	9	6回目	19	9	7回目	20	13	8回目	19	9							
回数	得点 (実線)	得点 (点線)																																
1回目	19	10																																
2回目	20	9																																
3回目	21	9																																
4回目	21	9																																
5回目	23	9																																
6回目	19	9																																
7回目	20	13																																
8回目	19	9																																

Cさん：2回目は評価表に欠落あり評価できず

図3. 個人別感情得点の推移と作品の一例

感情得点の推移	作品例																														
<p style="text-align: center;"><b>Eさん</b></p> <table border="1"> <caption>感情得点の推移 (Eさん)</caption> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>肯定的感情</th> <th>否定的感情</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回目</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>18</td><td>15</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>16</td><td>13</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>17</td><td>12</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>13</td><td>11</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>14</td><td>9</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>17</td><td>9</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>15</td><td>9</td></tr> </tbody> </table>	回数	肯定的感情	否定的感情	1回目	15	15	2回目	18	15	3回目	16	13	4回目	17	12	5回目	13	11	6回目	14	9	7回目	17	9	8回目	15	9				
回数	肯定的感情	否定的感情																													
1回目	15	15																													
2回目	18	15																													
3回目	16	13																													
4回目	17	12																													
5回目	13	11																													
6回目	14	9																													
7回目	17	9																													
8回目	15	9																													
<p style="text-align: center;"><b>Fさん</b></p> <table border="1"> <caption>感情得点の推移 (Fさん)</caption> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>肯定的感情</th> <th>否定的感情</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回目</td><td>14</td><td>12</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>14</td><td>14</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>14</td><td>11</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>20</td><td>9</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>13</td><td>12</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>17</td><td>11</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>12</td><td>10</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>15</td><td>11</td></tr> <tr><td>9回目</td><td>16</td><td>12</td></tr> </tbody> </table>	回数	肯定的感情	否定的感情	1回目	14	12	2回目	14	14	3回目	14	11	4回目	20	9	5回目	13	12	6回目	17	11	7回目	12	10	8回目	15	11	9回目	16	12	
回数	肯定的感情	否定的感情																													
1回目	14	12																													
2回目	14	14																													
3回目	14	11																													
4回目	20	9																													
5回目	13	12																													
6回目	17	11																													
7回目	12	10																													
8回目	15	11																													
9回目	16	12																													
<p style="text-align: center;"><b>Gさん</b></p> <table border="1"> <caption>感情得点の推移 (Gさん)</caption> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>肯定的感情</th> <th>否定的感情</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回目</td><td>18</td><td>9</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>14</td><td>13</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>16</td><td>12</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>20</td><td>9</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>14</td><td>12</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>14</td><td>11</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>10</td><td>12</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>12</td><td>11</td></tr> <tr><td>9回目</td><td>12</td><td>11</td></tr> </tbody> </table>	回数	肯定的感情	否定的感情	1回目	18	9	2回目	14	13	3回目	16	12	4回目	20	9	5回目	14	12	6回目	14	11	7回目	10	12	8回目	12	11	9回目	12	11	
回数	肯定的感情	否定的感情																													
1回目	18	9																													
2回目	14	13																													
3回目	16	12																													
4回目	20	9																													
5回目	14	12																													
6回目	14	11																													
7回目	10	12																													
8回目	12	11																													
9回目	12	11																													

肯定的感情  
 否定的感情

## V. 考察

### 1. 認知症高齢者にとっての「コラージュ」制作の意味

特別養護老人ホームで生活する認知症高齢者7人を対象に3ヵ月半にわたり全10回のコラージュ制作に取り組み、その際の感情表出の程度を数値化し推移を追った。その結果全員が、肯定的感情が否定的感情を上回り楽しみながら興味を持ってコラージュ制作に取り組んでいた。山本は<sup>12)</sup> 認知症高齢者にとってのコラージュの意義を「生きがい」と捉えている。コラージュを参加者が夢中になって制作し「満足した」「またやりたい」という言葉から理屈ではなくコラージュが生きがいになっていると感じると述べている。今回の対象者7人は、認知症高齢者自立度判定基準<sup>13)</sup> でⅡa 2人、Ⅱb 5人と認知症の程度がやや重く「満足した」「またやりたい」などの積極的な言葉を直接聞くことはなかった。しかし、毎回作品作りに集中し約45分間で4枚の作品を完成させたCさん。子供の写真が好きで「かわいいね…」といつも嬉しそうにしていたDさん。いつも緊張から唾液や唾を吐きだす動作があるが、コラージュ制作の時間だけはその行為がみられなかったEさん。景色や乗り物の写真が好きで「これはマッ

ターホルン…」などその写真を解説してくれるAさん。など普段接している介護士も気づかない一面を見せてくれた。制作の最後に一人ひとりの作品を披露し全員で大きな拍手をした時の参加者の満足感に溢れた満面の笑みは、おそらくホームでの日常生活では決して見られない表情だろう。長年に渡り（平均3.4年）ホームで単調な生活を送る超高齢者（平均86.9歳）にとり、誰かに自分のやったことを認められる、誉められる、賞賛されるという経験は久しくなかったことだろうと推測される。

コラージュ制作の実践を通しそのような表情を引き出すことができたことは、高齢者看護に携わる者にとっても非常に興味深く、意義深いものである。

## 2. 認知症ケアとしてのコラージュ制作の独自性

セラピーとしての「コラージュ療法」は、絵画療法のように「上手に絵を描こう」という気負いや「絵が下手だから」という引け目が少ない。また、言語表現を主とした集団療法のように「自分の話をする」とか「他人の話聞く」という対話を意識することもなく緊張感がやわらぎルールに拘束される堅苦しさがないという独自性と有用性がある<sup>14)</sup>。

今回の実践では、BPSDの出現頻度や症状の重さの程度、日常生活動作指標であるBarthel Indexスコアの変化（上昇）など具体的な数値による有効性を示すなどセラピーとしての効果を論じることはできない。さらに、完成した作品から対象者の気持ちの変化を考察するには十分な臨床心理学的分析が必要であり今回それを論じることはできない。しかし、平均年齢87歳（7人中3人は90歳以上）という超高齢者にとってこれからの長い人生を見据え認知症そのものの改善を目指すという視点ではなく、日々の生活のなかで短時間、例え一瞬かもしれないが笑顔を取り戻すなど肯定的感情を表出できる瞬間を作ることのほうが意味深いといえるかもしれない。また、今回のコラージュ制作では、対象者7人（実際には毎回一人程度の欠席がいたため5.6人の対象者）に対し5人の評価者が付いた。評価者は対象者の隣に腰かけ対話し、時に作品作りを手伝い約1時間にわたり認知症高齢者にじっくりと関わる事ができた。ホームでの集団生活の中で誰かに一対一でじっくりと関わり話を聞いてもらえるという機会もないだろうと推測する。約2週間に1回のコラージュ制作であったが対象者にとっては非日常ともいえる時間であったかもしれない。

本学の理念である「医療と芸術の融合」を具現化する取り組みとして美術学科と看護学科教員の共同研究として、特別養護老人ホームで生活する認知症高齢者を対象としたコラージュ制作を試みた。本実践を通し、芸術が人の心を癒し、病んだ人の心に変化を与えることの一端を明らかにすることができた。

## 謝辞

10回のコラージュ制作に取り組んで下さった7人の入所者の皆様、本研究にご理解とご協力いただきましたA特別養護老人ホーム施設長はじめ看護・介護スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

## 文献

- 1) 坂田由美子, 高田ゆり子, 金丸隆太ほか (2012) 認知症高齢者ケアにおけるコラージュの有効性. 日本公衆衛生学会総会収録集. 71 (10), 382.
- 2) 青木智子 (2002) 「コラージュ」実践の試み-痴呆性老人を対象としたレクの検討-. 東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要. 1 (1), 13-24.
- 3) 宮本奈美子, 山本映子, 木島ほづみほか (2008) 認知症高齢者への非薬物療法としてのコラージュ療法の効果-音楽療法との併用による-. 県立広島大学保健福祉学部誌. 8 (1), 145-155.
- 4) 相田陽子, 岡村太郎, 竹之内敏美ほか (2010) 精神科長期入院患者に対する集団でのコラージュを用いた介入による効果. 作業療法. 29 (1), 60-72.
- 5) 鶴木恵子 (2010) コラージュ制作が状態的な自尊感情及び自己効力感に及ぼす影響-統一素材を用いた検討-. 十文字学園女子大学人間生活学部紀要. 第8巻, 137-146.
- 6) 青木智子 (2009) マンダラ・コラージュ-自己理解の可能性-. 文京学院大学保健医療技術学部紀要. 第2巻, 31-40.
- 7) 倉益直子, 田内川明美, 宮内幸子 (2012) 「集団コラージュ療法」を活用した新人看護師のストレスケアの試み. 日農医誌. 61 (1), 49-54.
- 8) 中原睦美 (2013) コラージュに表現された乳がん患者の内的世界-創造性の高まりが見られたボックス法導入事例-. 日本コラージュ療法学会 第5回大会プログラム・抄録集. 16-17.
- 9) 深津亮 (2009) くすりに頼らない認知症治療Ⅱ非薬物療法のすべて, ワールドプランニング, 東京. 40-49.
- 10) 土屋景子, 井上桂子 (2002) 痴呆高齢者に対する主観的満足度の評価方法の検討-感情を指標として-. 川崎医療福祉学会誌. 12 (2), 389-397.
- 11) M. Powell Lawton (1994) Quality of Life in Alzheimer Disease. Alzheimer Disease and Associated Disorders. 8 (3). 138-150.
- 12) 山本映子 (2011) コラージュを聴く-対人援助としてのコラージュ療法-, すぴか書房, 埼玉. 103-104.
- 13) 滝川陽一 (1994) 「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」について. 公衆衛生. 58 (1), 73-75.
- 14) 杉野健一 (2011) コラージュ療法, 黎明書房, 名古屋. 34-35.

(平成26年11月7日稿)

査読終了年月日 平成26年12月1日